

第8回森町協働まちづくり委員会(平成17年11月11日)話し合いメモ

A班

キャッチフレーズ

地域の個性を磨き そこに住む人達が自分で考え行動を興す
～復古想新 地域の自立～

<教育・文化>

家庭、学校、地域ぐるみで育むまち

<都市(生活)基盤>

住みたい、住み続けたいまち

サブ 誰もが住みたくなるまち

- ・キャッチフレーズは大切なもので、誰にでも(子どもから年寄りまで)わかるもので、相手に伝わるものを考える。
- ・自分がやらなければだめ→地域の自立
- ・人が歩いていける範囲(概ね4km)の地域づくりが大切
- ・まずは家庭の教育が重要。

【～復古想新 地域の自立～】の考え方

町の北部と南部は、自然や生活環境も異なる。祭りそのものも異なり、地域的考え方や文化も同じでは無い。それを同じ考え方に合わせてしまうのでは無く、地域それぞれが固有の個性をさらに磨き上げて、まず、地域として自立し、一つの町としてまとまりをつくり上げていくことが大切です。

●修正

資料1 まちづくりの目標

- ・地域ぐるみで育むまち→家庭、学校、地域ぐるみで育むまち
- ・一度は住みたい、住み続けたいまち→住みたい、住み続けたいまち
- ・若者が住みたくなるまちづくり→誰もが住みたくなるまちづくり

資料2 教育・文化 1① 人格の陶冶→人格の陶冶(とうや)

●追加

交通安全

- ・原付バイクの交通ルール違反が多い。
- ・地域ぐるみで交通安全
- ・交通マナーの周知徹底
- ・①体験教室 ②シミュレーション体験 ③交通安全教室 の開催

防災

- ・ 消防の敏速な消火活動（初期消火できる対応）
- ・ 地震対策→自主防災（地域ごとに対処方法を考える←考えるきっかけづくりを行政でできないか）
- ・ 高齢者世帯等の対策（建物、地盤は大丈夫か）
- ・ 震災時、高齢者が自分の家から離れない。

その他

- ・ 元気な高齢者の活用→有償ボランティアによるコミュニティバス（病院、買い物等に行く）の運行。（運転手のボランティアは男性も参加しやすい。）

B班

キャッチフレーズ

協働でつくる人が行き交う活気ある森町

～復古創新～古きをいかして新しきまちを創る

- 1.みんながみんなのために動くまち（協働、連携の促進）
- 2.活気に満ちた産業を育むまち（産業の振興と雇用の創出）
- 3.住む人も来た人も安らげるまち（観光の振興）

商業の振興

- ①地元の商業者がまとまって商業施設をつくる
- ②森の市の拡大したものをつくっていく
- ③町民が投資した自分達の商業施設づくり
- ④町民の足を確保した民間主導（出資）のバスルートづくり

C班

キャッチフレーズ

人と自然の交差点 みんながチカラの 郷づくり ええら森町

<自然・環境>

「たんと自然に たんと愛情」

- ・ 心さわやか 気持ちよければ まちづくり
- ・ 水と緑の息吹を感じるまちづくり
- ・ ぬくもりのある自然の中に暮らせるまち
- ・ 自然と共に生きるまち

- ・たんと自然にたんと愛情
- ・森と共に生きるまち はだしで歩くまち

<健康・福祉>

みんな なっかで めくといら

- ・生きいき交流 すみよい（→めくとい）まち
- ・やさしさ ふれあい 元気なまち
- ・みんな なっかで めくといら
- ・お互いに助け合うまち
- ・健やかイキイキ 人づくり

●意見

- ・地区の公民館をみんなで活用する。（誰かがいて、高齢者や子どもが気軽に利用できるように）
→公民館を中心とした健康づくりと高齢者、子育て支援
 - ・公民館→普段は使わないので行ったことがない人もいる。日常的に使えるようにしたい。
 - ・あまり元気でないお年寄りが外に出たくなるように地域に引っ張り出す。→健康づくり
 - ・森町に岩清水を取りに来る人がいる。水はおいしい。（吉川筋近く大河内バス終点）
 - ・食推協に参加する男の人が地域に出て行って活躍してもらうように。
 - ・森の農産物は農薬を使わずに消毒しないで地産地消して、健康づくり
 - ・つと豆腐→煮付け（めずらしいもの）
 - ・みそ饅頭（みんなで地域の食べ物を探す）
 - ・柿、とうもろこし、レタス、椎茸、お茶、メロン、梨、おいしい米 地場産物を生かした食べ物づくり→地場野菜を使ったカレーづくりをやったことがある。
 - ・森のお茶はおいしい。
 - ・アイドリングストップ→各グループでやっている
 - ・荒れた畑の再生→農業委員会で研究している。
- } 各課、各部門で連携
- ・学校給食センター方式ということでなく、自校式は残してほしい。